

「清水口」ため池災害ハザードマップ 令和3年3月 萩市

近年、集中豪雨でため池が決壊し下流に被害がでている事例があります。ため池が決壊すると、一度に大量の水が流れ、土石流となって下流域に甚大な被害を及ぼします。

こうした災害に備えるため、万が一、**ため池が決壊した場合**の浸水区域を想定し、みなさんの避難行動に役立ててもらうためにハザードマップ（危険地図）を作成しました。

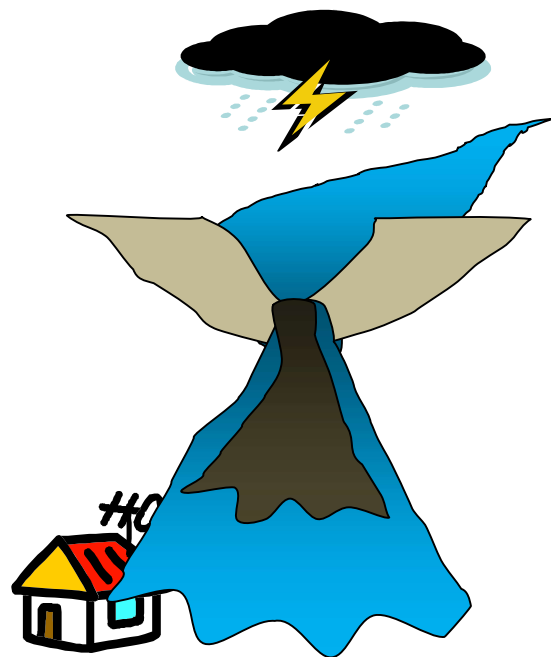
○ため池の決壊事例

平成25年7月28日豪雨により、須佐地域において「火打岩ため池」「西ヶ浴ため池」の2箇所が決壊し下流の農地に被害が発生しました。

危険ため池でなくても、古い年代のため池が多く、次第に老朽化していきますので決して安全という訳ではありません。常日頃から異常がないか点検することが大事です。



(H25.7.28 豪雨 火打岩ため池決壊)



○危険ため池について

災害対策基本法により、山口県防災会議が作成する山口県地域防災計画で、豪雨等により災害の発生するおそれがあるため池を危険ため池として災害区域に設定しています。防災重点ため池の中でも老朽度が高く、早期に改修が必要なため池です。

○防災重点ため池について

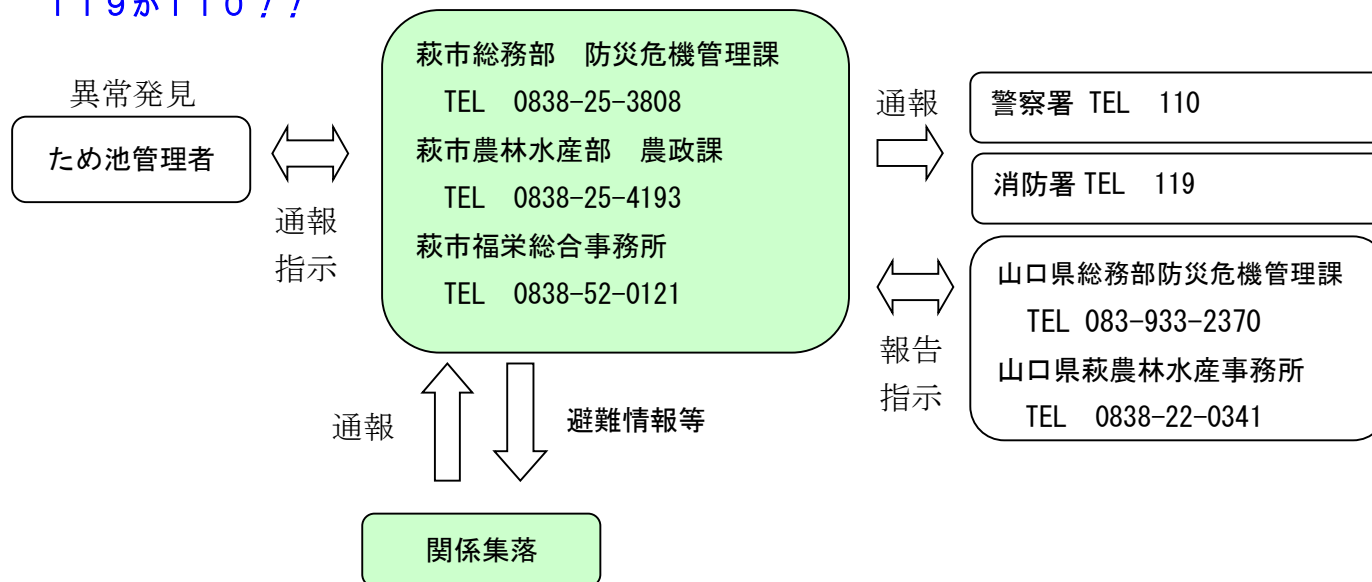
防災重点ため池は、「決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池」です。緊急時の迅速な避難行動につなげるため、ため池マップ、緊急連絡網、浸水想定区域図、ハザードマップ作成などを推進しています。

○緊急連絡体制

ハザードマップを作成した「ため池」は、いざという時に備え、下記の連絡体制をとっています。大雨の時などは、行政機関の出す情報に十分注意してください。

また、**突然の大雨や地震の時など危険を感じたら、早めに自主的に避難することも重要です。**ため池の異常を発見した時は、すぐに市に通報をお願いします。

人身被害は直ちに
119か110！！



大雨の場合は、浸水だけでなく土砂災害（土石流、崖崩れ）にも注意が必要です。

○ため池の異常とは

- ・古いため池はいくらか漏水がありますが、この漏水の量が突然増えてきたり、濁ってきたりしたら要注意です。堤体の中に穴が開き、大きくなっている証拠です。この穴が堤体の陥没を生み、ため池の決壊につながります。
- ・大雨でため池の余水吐（排水路）で山から流入してくる水が吐けず、堤体を超える場合は堤体が徐々に洗い流され、決壊へと進行します。
- ・地震で堤体にひび割れが入っても決壊につながります。

清水口ため池 ハザードマップ

